

令和6年度 第1回北海道立釧路芸術館運営協議会議事録

日 時 令和6年7月31日（水） 午後2時00分～午後4時20分
場 所 北海道立釧路芸術館 アートホール

○出席委員 10名

○館出席者 7名

○釧路芸術館共同事業体運営委員会 運営委員 2名

【議 事】（1）令和5年度事業報告

- ア 展覧会事業
- イ 芸術・教育普及事業
- ウ 作品収集状況
- エ 目標達成評価
- オ 令和5年度の新たな取組状況

（2）令和6年度事業計画

- ア 展覧会概要及びスケジュール
- イ 芸術・教育普及事業
- ウ 令和6年度の新たな取組

（3）その他

1. 開 会

館長より、令和6年度第1回北海道立釧路芸術館運営協議会の開催する旨の挨拶。

2. 挨 拶

運営委員長代理が、令和5年度の地域連携や展示室修繕等の取組概要を述べ、本日も忌憚なきご意見を伺い、館の運営に反映させていきたい旨を述べた。

3. 委員及び館職員の紹介と協議会成立について

館長が運営協議会委員と今春着任した学芸主幹の紹介を行ったのち、令和6年度第1回北海道立釧路芸術館運営協議会の開催にあたり、終了時刻は午後4時を目途としたい旨を表明、次に委員数14名中過半数の10名が出席となり、運営協議会規則第7条2項により本協議会が成立する旨を宣言した。

4. 会長と副会長の選出

出席委員の互選により、会長と副会長が選出された。

5. 議 事

(1) 令和5年度 事業報告

館長より、展覧会事業の観覧者数や観覧料収入、事業費支出状況について報告。
続いて、運営委員長代理が収支決算報告を行った。

会長 これまでで、ご質問やご意見はございますでしょうか。

委員 資料1の展覧会事業計画及び実施状況について、一番下の合計のところ
で数字の前の黒三角が消えています。同時開催の展覧会もありますが、あくまで延べの数字ということよろしいですか。

館長 それぞれの展覧会の合計数です。

委員 たくさん入った展覧会の方から同時開催の方に巡っていかれてます、
あくまで延べの数字だと思います。
それから資料2の収支決算書ですが、私は長く協議会に出させて頂いて
ますが、おそらく初めて見た気がします。収入計(a)から支出計(b)を
引いた金額の記載が無くて、手計算したところ3万1700円マイナス
となりました。収入の方の負担金というのは指定管理料でしょうか。

運営委員長代理 負担金は指定管理料になります。

館長 初めて出てきた資料ですねというお話しがありましたが、1年前の
協議会で、「資料1だけでは全体が見えないので、次回から収支決算書
もお願いします」というご意見がありましたので、前年度から提出
させて頂いています。

委員 大変よくわかる資料で、1億3千数百万で3万1700円しか差が出
なかったのは、よく取り組まれているなというのが数字を見て改め
て分かりました。

委員 収支決算書の「運営管理費」と「その他経費」について、計画
に対しての実績がそれぞれ数倍、十数倍と大きな差がありますが、
ご説明いただけますか。

運営委員長代理 運営管理費につきましては、既存の人員ではカバーできない時のサポート要員の人件費も含まれております。
その他経費につきましては、展示室のカビ対応の件、外看板の更新、LED 照明の購入等の費用が加算されております。

委員 その他の収入というのは、どういったものでしょうか。

運営委員長代理 その他収入の内訳は、「ヨーロッパ近代絵画の巨匠たち」展や「ディズニー キャッツ&ドッグス」展関連事業の参加料やクリスマスコンサートの協賛金等でございます。

会長 お聞きしたいことがあります。負担金というのは道教委から支払われるお金ということですが、それをもとに指定管理者が利益が出るように運営していくというものです。予定していた金額より収入が多く入れば、それだけ事業体の収益になると思います。この収支決算書を見ると収入と支出の差額が 3 万 1700 円ということで、このままですと儲かった部分をほぼ全額、令和 5 年度で使い切ってしまったように読み取れ、事業体の利益が見えてこない表に感じられます。

また支出総額の実績は計画に対して上回っているのに、消費税支出については減少しているというのが、課税されない部分の支出があるのでしょうか。これらについてご説明願えますでしょうか。

運営委員長代理 一部展覧会に関して、予想以上に経費が掛かってしまったということです。

会長 その他ご意見はございますでしょうか。
それでは、続いて令和 5 年度展覧会事業の詳細についてご報告願います。

学芸主幹が令和 5 年度の各展覧会と関連事業について報告を行った。
戦後を代表する写真家である奈良原一高の作品を展示した「奈良原一高 写真展」、モネやルノワール、ピカソなど近代ヨーロッパを代表する画家の「ヨーロッパ近代絵画の巨匠たち」、ディズニー作品に登場する猫や犬のキャラクターのデジタル原画を中心に展示した「ディズニー キャッツ&ドッグス展」などを紹介した。
関連事業としては「アート」と「食」を両方楽しめるイベントやものづくりのコー

ナー、「ディズニー キャッツ&ドッグス展」会期中にロビーで行った「みんなの動物絵画展」などを紹介した。

続いて、館長が芸術・教育普及事業について報告。道銀文化財団との共催である「ミュージアム・コンサート Art Ensemble #18」や釧路市こども遊学館と連携した「出前遊学館サイエンスショー」などを紹介。上映会事業のアートシネマ館は貸館事業等との兼ね合いで、令和6年度から午前の1回上映に変更したことを説明した。

委員

令和5年度は展示室のカビ対策の他にどのような修繕を行って、また今後予定されている修繕はどんなものがあるのか、教えてください。

もう一つは、「ディズニー キャッツ&ドッグス展」の成果と今後の課題の所に、「本展は展示構成の質は高かったが、出品作品のほとんどがデータ出力による複製品であった。今後、美術館の展示としてはこのようなものをどう位置付けていくのか他館の状況を踏まえて考えていく必要がある。」と書かれています。最近こういう展覧会が増えてきているのかという状況をお聞かせ願えればと思います。

運営委員

まずカビの関係ですが、展示室の北側のスペースに木製のサッシ窓があり、そこが長期間はめこみの壁でふさがれていました。さらに、窓ガラスが2枚重ねになっていますが、その隙間に充填されていたガスが抜けて冬期の結露を誘発したため、カビが発生。その後は窓枠ごとガラスを交換し、消毒作業を行いました。

今後懸念されるのは空冷チラーです。フィンの部分が塩害などによって経年劣化し、片肺呼吸のような状態で運用しているため、温湿度管理に苦慮しています。すでに道教委には見積等を提出し、修繕を要望しているところです。

他には自動ドアが設置から相当年数が経過しており、供給が終了している部品があり、修理が不可となっているため、こちらも道教委へ更新を提案しております。

館長

補足させていただきます。

展示室のカビの件につきましては、発見後に応急措置はしたのですが、そのままですとその後の展覧会の開催が危ぶまれる事態も想定されましたので、館の方から道教委に強力に働きかけまして、9月の展示替期間中に対策工事を完了させていただきました。

その他、前年度の大きな修繕としましては、中央監視装置がコント

ロール不能となっておりますが、予算を付けていただいて更新に至りました。以上でございます。

会長 もう一点のご質問の、複製品の展示についての見解はいかがでしょうか。

学芸主幹 私自身が記述した文章ではないのですが、こういった考え方もあると思います。モチーフの親しみやすさという面では良いテーマだったのではと感じますが、一方で表現方法としてお客様の期待にそぐわなかった部分もあったのかなと推測しております。今後展覧会の企画内容を検討していくにあたっては、そういった作品の位置付けをこれまで以上に考えていく必要があるのではと思います。決してデジタルの作品がいけないというのではなくて、これからは比較的多くそうした表現が見られていくと思いますので、興味を惹きつけられる内容で皆さんに見て頂けるような企画を検討できればと考えております。

委員 全国的な傾向はわかりかねますが、複製的な手段を使う美術館は増えていると思います。特に作品を並べるだけではなくて、映像で復元して体験的な感動を与えるということが行われるようになってきました。

「ディズニー キャッツ&ドッグス」展の場合は複製品と書いてありますが、元々手書きの原画があってそれをスキャンして出力したものなのか、それとも原画自体がデジタルな手法で作られたものなのかというのは把握しておりません。今は漫画でもパソコン上で描いていくという時代になっていますので、いわゆる手作業によるものがオリジナルで、機械的手段を用いたものが複製であるというのが厳密に分けられなくなってきています。

一方でこの複製品を、美術館で購入や寄贈していただいて收藏するという、展覧会とは別のレベルで考えてみると、なかなか難しいかなと感じます。道立近代美術館では昨年度末に北海道の戦後の写真家である掛川源一郎さんの作品を多く收藏したのですが、ご本人が生前に監修して作成した展示用プリントがありまして、それは作者が承認して作品扱いしたものとして收藏しているのですが、亡くなった後に作品を管理されている方が、元のネガをデジタル変換してプリントアウトしたものは、ご本人がオーソライズしていないので、作品扱いはしていません。ですから、制作に関わったどなたがオーソライズしているのかが收藏の際の一つのポイントになっ

てくると思います。

展示に関しては、今後もっと複製品は色々な形で生かされて増えていくのではと思います。

委員 釧路芸術館の収集方針の一つが写真を含む映像作品ということで、写真も元々はネガを複製しているものですからね。今のご説明で大変よくわかりました。

委員 続けてですみません。教育普及事業の「教員のための鑑賞研修」ですが、2007年か2008年に旭川美術館で当時の館長の提案で始まったものではないかと記憶しております。学校の先生にいち早く展覧会をご覧になってその魅力を知って頂き、生徒さんへの鑑賞を促したり、教育に利用して頂いたりしたいというのが趣旨だったと思うのですが、釧路芸術館の昨年度の例を見ますと参加者がいなかったり、1名であったりしました。これは元々こういうものなのか、何らかの事情があって少ないのかというのを分析して別の方法で先生への広報や色々な促しを検討される余地はあるのかということをお聞きしたいです。

もう一つは道立館が作っている展覧会紹介番組「北海道リモートミュージアム」や、スマートフォンで解説が聞けるアプリ「ポケット学芸員」を、釧路芸術館も導入されていますので、利用者数は把握できないけれども、そういった普及的な事業も行っているということは何らかの形で事業報告に反映して頂ければ、より実態に近いのではと思いました。

学芸主幹 「教員のための鑑賞研修」は昨年の実績を見て、寂しいなと感じました。他館ではこんなに定期的に実施していませんので、すごいなと思います。私は4月に赴任してきて、「鴨居玲展」の鑑賞研修はお二人が参加されたのですが、そのうちの一人の先生が夏休み期間に生徒さんを連れて鑑賞の時間を設けてくださりまして、数は少ないのですが、実感としてやっていることに意味はあるのではないかと考えておりますので、様子を見ながら続けていきたいです。募集の方法については、もう少し検討が必要かもしれません。なかなか先生方に情報が行き届いていない気がします。

会長 私も実は責任を感じておりまして、函工美術の先生方の集まりである釧路造形教育研究会の会長をやらせて頂いてまして、情報を得ると会を通じてお知らせするという事なのですが、なかなか参加

がないというのは残念に思います。

一方で先生方はかなり忙しいという状況があります。それから、土曜日に取って研修をするのかという気持ちになるのかもしれないですし、逆に研修という名目があれば、夏休みや冬休みに学校を離れてここで研修をしたという実績になるという両面があります。どういう研修が良いのかというのを改めて確認してみますので、引き続き学校の先生方に色々な鑑賞を提供して頂ければと思います。

学芸主幹 夏休みと冬休みに合わせて指導者研修というのも実施していました、今回は8月2日なのですが、まだ応募がありません。

会長 本日急遽周知してみます。ありがとうございました。

委員 「ヨーロッパ近代絵画の巨匠たち」展の成果と今後の課題のところ、「会期中は展覧会にはほぼ無関係の類似する飲食イベントや、鑑賞の障害ともなる展示室内での事業が実施され、職員がイベントに忙殺された」という表記があって、どのような状況だったのかというのが一つ気になりました。

もう一点は、アンケートについてどういう取られ方をしているのかわからないのですが、回答数が少ない中でどれくらい継続していく重要性を感じているのかということと、結果をどのように取り扱って事業に反映しているのかというのを聞かせて頂きたいです。

学芸主幹 この会期にしては、かなり多く「ランチ&トーク」や「ワイン&トークの夕べ」ですとか、飲食を伴うイベントが実施されていて、それぞれ10数名という定員が設けられ参加人数が限られた中で、そこに多くの準備時間や労力を注ぐということですので、内容と頻度については今後精査して、もっと展覧会について深く知って頂けるような事業を展開していくという反省が込められているのではとこの記述を読んで感じます。

アンケートについては、展示室を出たところに用紙を置いて自由に記入して頂く形ですが、満足な方は意外と書かない、何か言いたいことがある方が書かれるのかなと思います。設置する必要性については、色々なお声を集めてそれをどれだけ反映できるかについては検討しなければいけないですけれども、継続する意義はあると考えています。

館長 アンケート結果をどのように反映していくかということですが、

資料には総括的な数字しか載せていないですが、用紙には自由記述欄がありますので、そこには監視員の態度、すごく優しくて良かったという評価もあれば、何か睨まれているようで辛かった、あるいはお子さんが展示室で大声を出したり走ったりしたことに対するの注意のし方が厳しかったなど諸々ございます。それでその頂いた意見はすぐ回覧しますし、例えば監視員に対することであれば、伝えます。私の意見も付け加え、時には学芸主幹のご意見を聞きながら、こういうふうに変更しようかと周知します。

それと例えば制度的なもので言いますと、道立美術館では相互にリピーター割引を行っていきまして、例えば近代美術館の展覧会半券を旭川美術館で提示すると割引が適用される制度です。2年前まで当館は指定管理施設であるということで、この相互割引に参加していませんでしたが、私が着任してからアンケートの中で、他の道立美術館は相互割引があるのに、同じ道立の釧路芸術館で適用されないのはおかしいというご意見がありまして、全くその通りだと思いました。道教委の所管課に伺いますと、相互割引を導入すると収入減になるので見送る、と聞いていたのですがいいのですかと訊かれました。私はわずかな収入減よりも、他の道立美術館は全部導入しているのに、当館だけしていないというマイナスイメージの方がデメリットは大きいと感じましたので、道教委の方にこういったことで改めたいと思いますと話し、道教委の仲立ちで他館の承認も得まして、速やかにお仲間に入ることができました。このように、アンケートは気付かないことを気付かせて頂ける非常に大切なものですので、是非続けていきたいですし、改善できるものは即改善していきたいと思っております。

委員

あともう一点ですが、広報の仕方について色々悩んでらっしゃるのではと感じています。先程 SNS の確認をさせて頂きましたが、チラシをそのまま画像で投稿しているのを発見しました。それだとチラシと同じなんですね。もっと SNS ならではの活用方法があるのではないのでしょうか。

フォロワー数は今後どんどん増えていくと思いますが、投稿によって「いいね」の数が少し寂しいなというところがありました。例えばですが、搬入しているトラックを写すとか、今まさに作品が入ってきているというライブ感があると良いと思います。

私も色々な SNS を活用する機会がありますが、普段は見られない裏側を投稿したりすると一般の方は惹きつけられますので、色々研究されるといいのではないのでしょうか。

- 学芸主幹 SNSについては、展覧会や関連事業などの基本的な情報に加えて、惹きつけるような内容の投稿も検討しているところですので、このご意見を糧に研鑽を積んでいこうと思います。貴重なご意見ありがとうございます。
- 会長 では、次の議題の「令和5年度作品収集状況」についてお願いします。
- 学芸主幹 購入が1作品、寄贈が3作品の合計4作品が加わり、総計328作品となりました。
当館では写真などの組作品において、1組10作品や20作品という場合があります、結構数が多いのですが、組作品を個別に数えた参考数で申し上げますと、総計920作品となります。
購入作品については、国内外で活躍する現代写真家・森山大道の「北海道」というタイトルの写真集の中から20点を選び、新たにプリントしたのち、サインを頂いたものを収蔵しました。すでにコレクションにある作品と合わせまして、12月から開催する「ももちゃん芸術祭2024」と併催の「新収蔵品展」で展示予定です。
寄贈作品については、3作品のうち2作品が現代日本を代表する写真家・細江英公のもので、個人からの寄贈となりますが、細江は森山大道の師匠であったため、そこに繋がりを感じて頂けるのではないのでしょうか。1点目の「釧路湿原」は、舞踏家の大野一雄が平成6年に興行のために釧路を訪れた際に撮影されたもので、釧路湿原で舞を舞う姿をとらえた、地域ゆかりの写真作品です。もう2点は2点1組の作品ですが、パリのロダン美術館で撮影されたもので、人間の体の造形にせまる写真作品です。それから、釧路在住の日本画家である羽生輝が大学時代に制作した「部屋のかたすみ」は、日本画に移行する前の油彩作品で 釧路芸術館ポポ&ももの会から寄贈されました。羽生輝の作品は既に収蔵していた10点と合わせて11点となり、体系的な収集に結びつきました。ちなみに道立館全体で言いますと、合計で20点でございます。
- 会長 続いて、令和5年度の「管理の目標達成度評価調書」と「新たな取り組み状況の報告」について、ご説明願います。

館長が「管理の目標達成度評価調書」について、「展覧会の観覧者数」や「教育普及事業の参加者数」、「利用者満足度の向上」など全6項目で高い評価点を得て、総

合評価が非常に適切な管理運営を意味する「AAA」であったことを説明。この結果に満足することなく、さらなる向上を目指したいと述べた。

次に「令和5年度の新たな取り組み状況の報告」について、以下の項目を説明した。

1. 開館25周年記念事業

開館記念日イベント（10月24日）、記念缶バッジ作成・配布

開館以来の入場者60万人達成（10月27日）、西側大看板の改修

2. 誘客の促進

みんなの動物絵画展の開催、節目節目の記念セレモニー実施

3. 地域連携の拡充

くしろステイメンバーズカード事業に参加→釧路市と連携→割引料金

4. 学校・博物館連携の拡充

若きカフカス人（中原悌二郎）の借用・展示→道立近代美術館と連携

道立美術館相互リピーター割引の実施

パフォーミングシアターの見直し→釧路市こども遊学館と連携

5. その他

展示室一部修繕工事の実施、中央監視装置の更新

会長 ここまででご質問やご意見はありますか。

それでは、議事（2）に移りまして、令和6年度事業計画についてご説明願います。

（2）令和6年度 事業計画

館長が令和6年度現時点での展覧会観覧者数等の報告を行った。「写真家 岩合光昭の日本ねこ歩き」については、観覧者が9年ぶりに7千人を上回ったこと、観覧料収入が、館の単独展としては、指定管理を導入した平成18年度以降で最も多かったことが言及された。

引き続き館長が「令和6年度の新たな取り組み」について以下の5項目を説明。

1. 特別展・錦町駐車場無料時間の延長（1時間⇒2時間）実現

・7月13日開会の鴨居玲展より実施

⇒近年の地域連携・にぎわい創出への取り組みが評価された。

2. 地域連携・にぎわい創出事業

■くしろ港まつり、大漁どんぱくへの積極的な参加

・港まつり協賛・第1回芸術館夏まつり（8月3日（土））

■釧路文学館と連携（文豪とアルケミスト→パネル設置やスタンプラリー）

3. 優待割引料金の導入

○100円割引料金の設定

・みんなのねこ歩き写真展（猫の写真を提出・ロビーに展示）

- ・岩合ねこ歩き展 ニャーニャーの日割引（5月22日、6月22日）
- ・鴨居玲展（玲=0）ゼロの日割引（各月10日、20日、30日）
- ・SNS フォロー割引（当館のSNS フォロー画面提示）

4. 夜間開館の拡充

- ・従前は7月・8月のみ実施⇒展覧会毎に夜間開館日を設定（5月～10月までの各月最終金曜日は19時まで開館、計6回）

5. 芸術館前・両面看板の設置（マグネット付きポスターを掲示）⇒
どちらの方向から来ても見える⇒誘客の促進

会長 令和6年度の事業計画をご説明いただきましたが、ご質問・ご意見等ありましたら、お願いいたします。

委員 特別展を観覧した場合の錦町駐車場駐車料金の無料時間延長は悲願と言って良いと思います。今までの協議会で、何とか延長を実現できませんかと発言させて頂いており、それが館長のご尽力で叶いましたので、非常に評価に値することだと私から後押しさせていただきます。

委員 私も錦町駐車場の件は、長年の課題であると認識しておりましたので、大変粘り強くご尽力されたのだと感じております。また、令和5年度・6年度の新たな取り組みについてお話し頂いて、こういうことにポイントを置いて行っているというのが明確に伝わってきましたので、ありがたいと思っております。

釧路芸術館も美術館機能を備えており、その一つに調査研究ということがあります。それが元になって、展覧会のコーディネートや企画というものの厚みがどんどん増して、地域に色々なものを還元していくと思いますので、美術史や作家、そしてその活動そのものについて調査研究するというのを新しい取り組みの中に加えて頂ければありがたいです。

委員 釧路芸術館は道立ということで、釧路・根室地域をカバーしているのとらえていますが、なかなか根室におりますと、身近な施設とは言い難いところがあると思います。私は委員をしているので、他の方よりは馴染みがありますが、根室の方が釧路に立ち寄った時に芸術館にも来て頂く動機づけというのがあれば良いなと思います。まずは、他の施設の文化イベントや美術展に来ているコア層に呼び掛けていけば、その方の家族や同僚など身近な人たちと一緒に来館

するといった広がりが出てくるのではないのでしょうか。
私も根室に戻りましたら、PRしていこうと考えています。

委員

私も根室エリアから参りまして、美術系の大学を出ておりますので、とても美術には興味があります。
今回出席させて頂いて思い出したのですが、学生時代に旭川美術館でアルバイトをしていた時に、委員と仕事をさせて頂いておりました。その節はお世話になりました。展示の魅力だけではなく色々経験いたしましたので、芸術館についてももっと知りたいと改めて思いました。

絵本の読み聞かせのボランティアをしています。芸術館で絵本原画展があると知人数人と乗り合わせて見に来ていますので、美術館施設というのは地域の生涯学習にとって、とても重要な場所となっています。私も地元の方々に芸術館の魅力を伝えていくという役割を感じておりますので、今後とも皆さんで頑張りたいです。

会長

最後にその他について事務局よりお話し頂きます。

(3) その他

館長

貴重なご意見を受け止めまして、改善そしてPR強化に努めてまいります。また、根室の方にもっと来て頂けるようにしていきたいと考えております、ありがとうございました。
本協議会の議事録につきましては、会長にも内容の確認をして頂き、委員の方々の名前を伏せた形でホームページにて公開いたしますので、ご了承頂きたいと思っております。
また、次回の運営協議会は令和7年2月に予定しております。

会長

本日の議題は全て終了しましたので、事務局に進行をお戻しいたします。

館長

会長、円滑な議事進行、誠にありがとうございました。
ここで、運営委員長代理より、本協議会のお礼のご挨拶があります。

運営委員長代理

皆様、本日は貴重なご意見を頂き、ありがとうございます。
有効なSNSの活用等、今後の運営に役立てて行きたいと思

ます。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたしま
す。

これをもって、令和6年度第1回北海道立釧路芸術館運営協議会は閉会となった。